臨床研修案内

Postgraduate Clinical Training Program

2025 - 2026

置賜広域病院企業団

公立置賜総合病院

http://www.okitama-hp.or.jp

医師となって最も重要な研修医期間

医療監　院長　林　雅弘

臨床研修管理委員会委員長

当院は2000年に、併せて690床の旧市立・町立病院を、520床の急性期医療を担う総合病院と、併せて100床の初期と回復期医療を担う4つのサテライト病院・診療所に再編統合し建設されました。現在も総務省が進めている地域完結型、急性期と回復期医療の再編を先取りしたような形で、置賜2次医療圏の唯一の三次救命救急センターを有し、地域医療の中核としての役割を果たしています。救急車は年間3600台以上でER受診患者は18000人余り、ERからの入院患者は4100人以上であり経験する症例は豊富です。

置賜地域は、人口20万人余り、面積は神奈川県よりも大きく、雪深い冬を過ぎると春から秋にかけては「日本のふるさと」と呼ぶにふさわしい穏やかな田園地域で、心の温かい人々が暮らしています。

当院では一次から三次まで多種多様な疾病に関わることができ、まさにプライマリーケアの研修には最適の環境と言えます。臨床研修でプライマリーケアを習得し、その中で興味ある分野を思索追求し、キャリアアップのために進む道を自由に選択していきましょう。

初期研修後の進む道に関しても指導医は皆さんの気持ちを第一に相談に乗ってくれます。専門医取得を目指した専攻医としての研修も視野に入れて病院選択を検討する事も重要です。当院はその専門性の高さから50近くの学会から専門研修施設の認定を受けています。これは研修医修了後の進路の選択にも必ず役に立ちます。

2年間の初期研修医の期間を病気ではなく患者を診る、治療する当院で過ごしてみませんか?令和元年度のレジデントハウスの完成など研修環境は整っています。一度見学に来てください。自分の目で見て、耳で聞いてみて下さい。お待ちしています。

公立置賜総合病院　卒後臨床研修の理念と基本方針

理　念

- ►医師としての人格を涵養する。
- ►医学及び医療の果たす社会的役割を認識する。
- ►プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身に付ける。
- ►患者を全人的に理解し、尊重するよう努める。

基本方針

- ►患者の呈する症状、身体的所見、検査所見に基づいた鑑別診断及び初期治療を的確に行える能力を修得する。
- ►医療チーム構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調・協力する習慣を身に付ける。
- ►患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付ける。
- ►急性期医療を中心として、科学的根拠に基づいた良質な医療を提供するよう努める。
- ►地域連携の現場を体験し、地域の基幹病院及びサテライト施設等の役割を理解する。

教育研修部長
江口　英行
教育研修委員会委員長

当院は山形県南の置賜地区において唯一の救命救急センターを要する基幹病院であり、ほぼすべての救急患者が当院に搬送されるため、さまざまな救急患者を経験することができ、プライマリ・ケアの習得には最適な病院です。さらに、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、感染症指定医療機関にも指定され、専門性の高い疾患も経験できます。

山形市内から車で1時間弱の、のどかな田園地帯に病院はあります。一見、地味に見えるかもしれませんが、救命救急センターには救急車がひっきりなしに出入りし、センター内では日本救急医学会専門医1名を含む常勤医2名と研修医が迅速に対応しています。さらに、CT、MRIが2台ずつ整備され、高度な放射線治療も可能で、急性期病院における精神科疾患にも対応し、病理の常勤医もおります。「こんな田舎に、こんな大きな病院があったんだ。」というのが多くの研修医の感想です。

当院で中身の濃い研修をして、逞しい医師になりましょう。

病院概要

病床数	外来患者数	救急車搬入台数
496床 救命救急センター20床を含む	887.2人／日 うち救命救急外来50.1人／日	4,465台／年 12.2台／日
医師数	**入院患者数**	**ヘリコプター搬入回数**
120名 研修医18名を含む	385.7人／日	20回／年

救命救急センター

センター長　五十嵐　季子

当センターは置賜地域唯一の救命救急センターで、年間18,000件を超える受診があり、年間4,000台の救急車の搬送を受け入れています。地域の方が安心して暮らすことができるよう、誰ひとり取り残すことのない救急医療を目指しています。

救急科研修では、臨床研修で経験すべき症状、疾患、病態を数多く経験することができます。頻度の高い症状の診断と治療、緊急を要する疾患や病態の初期治療を習得できます。また地域の医療機関や消防機関との連携を理解し、実践することができます。

当センターは研修の場として充実した環境であり、毎年、研修医が逞しく成長しています。救急医療に興味がある方も、救急研修を通じて将来の進路を定めたい方も、当院で初期研修２年間を過ごしてみませんか。お待ちしています。

救命救急センター研修では、一次から三次までの多種多様な症例を数多く経験することにより、プライマリ・ケアの基本的診療能力が習得できます。

公立置賜総合病院は置賜二次医療圏における急性期医療の基幹病院として、
一次から三次医療までの様々な症例に対して医療を提供しています。

施設認定

- 救命救急センター
- 地域がん診療連携拠点病院
- 災害拠点病院(地域災害医療センター)[置賜二次医療圏]
- 第二種感染症指定医療機関
- へき地医療拠点病院
- 臨床研修指定病院　医師　基幹型
- 臨床研修指定病院　歯科医師　基幹型
- 臨床研修指定病院　医師　協力型
- エイズ治療拠点病院
- 地域医療支援病院
- 日本医療機能評価機構認定病院　3rdG:ver.2.0(2021年5月～)

認　定　証
Certificate of Accreditation
公立置賜総合病院
☆☆☆
公益財団法人　日本医療機能評価機構

認　定　証
Certificate of Accreditation
公立置賜総合病院
公益財団法人　日本医療機能評価機構

学会等認定施設

- 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- 日本糖尿病学会認定教育施設I
- 日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 浅大腿脈ステントグラフト認定施設
- 日本乳癌学会専門医制度関連施設
- マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
- 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- 日本臨床細胞学会認定施設
- 日本麻酔科学会認定病院
- 日本IVR学会専門医修練施設
- 日本血液学会認定専門研修教育施設
- 日本小児神経学会小児神経専門医研修認定施設
- 山形県児童相談所協力病院指定
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本臨床栄養代謝学会NST専門療法士認定教育施設
- 日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
- 日本透析医学会教育関連施設
- 日本口腔外科学会准研修施設
- 日本脳卒中学会研修教育施設
- 日本医学教育学会機関委員
- 日本神経学会准教育施設
- 日本胆道学会指導施設
- 日本精神神経学会連携施設
- 日本周産期・新生児医学会補完施設(新生児)(母体・胎児)
- 日本手外科学会関連基幹研修施設
- 日本総合病院精神医学会専門医研修施設
- 日本病院総合診療医学会認定施設
- 日本口腔ケア学会認定施設
- 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- 日本腎臓学会認定教育施設
- 日本臨床神経生理学会教育施設
- 日本膵臓学会指導施設
- 日本形成外科学会認定施設
- 日本救急医学会連携施設
- 日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
- 日本専門医機構　総合診療専門医検討委員会総合診療専門研修プログラム認定
- 日本肝臓学会特別連携施設
- 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
- 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
- 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設
- 日本総合病院精神医学会電気けいれん療法研修施設
- 日本臨床衛生検査技師会品質保障施設

研修の特色

症例数
豊富な症例数

当院は置賜地域の高度医療を担う拠点病院であり、また救命救急センターを有することから一次から三次救急までの様々な症例を経験できます。

救命救急センター
救命救急センターでの研修

県内に3施設しかない救命救急センターを併設し、さらにより広域的な救急搬送体制を確立するために緊急用ヘリポートも設置しています。

指導医数
充実した指導医数

50名を超える指導医が在籍しており、手厚くきめ細やかなマンツーマンの指導体制のもと、他院とは比較にならないほど数多くの手技を経験することができます。

地域医療
サテライト医療施設での研修

当院は基幹型臨床研修病院であることから、精神科はもちろん、地域医療についても病院企業団内のサテライト医療施設（各病院とも車で15分程度）で研修を行うことが可能であり、2年間研修に集中することができます。

置賜広域病院企業団

公立置賜総合病院は、置賜地域の高度・救命医療を担う病院として、隣接する2市2町（長井市、南陽市、川西町、飯豊町）と山形県が設立運営主体となって建設され、2000年11月から診療を開始しました。
それまでの市立病院・町立病院は住民のより身近なサテライト医療施設として初期医療や慢性期医療を担い、当院と機能分担を図っています。この試みは全国に先駆けて実施され自治体病院の広域再編モデルとなっています。

連携施設

山形大学医学部附属病院、米沢市立病院、鶴岡市立荘内病院、公立置賜長井病院、公立置賜南陽病院、小国町立病院、公立高畠病院、朝日町立病院、山形県置賜保健所

初期研修プログラム

（公立置賜総合病院　卒後臨床研修プログラム）

プログラムの特徴

- 自由選択プログラムにより、すべての研修科目の中から1か月単位で選択することができます。
- BLS、ACLSプロバイダーコース受講を支援します。

当院の臨床研修は、将来の専門性に関わらず、日常診療で遭遇することが多い疾患・病態に迅速で適切に対応できる基本的な診療能力を身に付けられるような研修内容としています。

研修スケジュール（標準）プログラム例（定員9名）※地域医療重点プログラム（定員1名）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	内　科（24 週） 【必修】※1						救急科 （8週） 【必修】※2		外科 【必修】 ※3	小児科 【必修】 ※3	産婦人科 【必修】 ※3	精神科 【必修】 ※3

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2年次	地域医療 （4週） 【必修】※4	自　由　選　択										

- 自由選択科目については、全ての診療科の中から1か月単位で自由に選択することを可能としています。
- 外科系専攻コース、内科系専攻コース等標準的な推奨モデルも設定しています。
- 具体的な診療科の選択についても教育研修部が責任を持って指導します。
- ローテションは順不同です。

【必修】　※1　初期臨床研修を円滑に、効果的に行うため、4月にオリエンテーション研修プログラムを実施します。
※2　救急科は12週必修ですが、救命救急センターにおける宿日直業務を研修期間とすることができます。
※3　外科、小児科、産婦人科、精神科を各4週以上研修します。
外科は、外科・消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科から選択することができます。
※4　地域医療重点プログラムでは、地域医療12週となります。

その他、一般外来を（初診患者の診療及び慢性疾患患者の継続診療を含む）4週以上研修します。

研修予定（参考）プログラム

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	消化器内科		循環器内科		腎臓・透析内科	外科・消化器外科		放射線科	救急科		呼吸器内科	

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2年次	小児科	産婦人科	地域医療	眼科	総合診療科	神経内科	精神科	血液内科		代謝・内分泌内科		

指導医からのメッセージ

消化器内科

消化器内科は、医師10名に初期研修医が加わります。日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会等が認定する教育・指導施設であり、学会の指導医・専門医が揃います。診療はチーム医療体制をとり、研修医にはマンツーマン体制で指導医がつきます。

がん診療連携拠点病院として、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や食道癌の放射線治療なども十分な経験値を積めるほか、炎症性腸疾患に対しても特に専門性の高い治療を学べます。全国有数のラジオ波の治療件数に象徴されますが、置賜地域は特に肝疾患患者が多い地域です。また、胆膵疾患患者も多く、内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）に関わる検査・治療、さらに経皮的処置に関し理解と自信を得られます。

質、量ともに要望に応じたオーダーメイドの研修が可能です。学びは、高いところから眺めて知るのが近道です。そして何より、人との出会い、導く指導者が必要です。消化器内科医として、高度な診断・治療法まで十分な研修が可能です。

循環器内科

循環器内科は常勤医7名（うち循環器専門医5名が研修施設に認定）、2チーム体制で診療にあたっています。診療は高血圧、虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症、先天性心疾患、心筋症、肺高血圧症、肺塞栓症と広範囲にわたります。急性心筋梗塞や不安定狭心症といった急性冠症候群に対しては24時間体制で、心臓カテーテル検査を行います。

研修医へは、心臓カテーテル検査や経皮的冠動脈形成術（PCI）、カテーテルアブレーション、ペースメーカー植え込み術（（リードレスペースメーカー植え込みを含む）など、豊富な症例で充実した研修を提供いたします。PCIに関してはDCA（方向性冠動脈粥腫切除術）、ロータブレータ、エキシマレーザー冠動脈形成術等、最新の手技を学ぶことができます。心臓カテーテル検査やペースメーカー植え込みといった手技については、卒後2～3年目より術者として経験できます。また、心房細動に対する肺静脈隔離術を中心に、カテーテルアブレーションも積極的に行っております。

是非当院での研修をお待ちしております。

内　科（呼吸器）

当院は日本呼吸器学会教育病院に指定されており、医師は総勢4名で、うち日本呼吸器学会指導医1名が常勤しています。

当科の研修の特徴は、幅広く呼吸器疾患を学べることです。最先端の肺がん治療、治験、クリティカルな感染症治療から、睡眠時無呼吸症候群、気管支喘息、COPDなどの一般診療まで経験することができます。

入院患者は年間900人前後。気管支鏡検査は年間約200件、超音波気管支鏡検査は約60件。夜間ポリソムノグラフィーは年間約50件。肺機能検査機器はモストグラフ、呼気一酸化窒素検査を実施しています。

昨今、呼吸器内科はアレルギー科、感染症科、腫瘍内科等細分化してきておりますが、当科は、視野の広い、考える臨床医の育成を目指しています。

一緒に学んでいける研修医を募集しております。

内　科（腎臓・透析）

現在当科は常勤医師が3名います。主に腎臓病や膠原病の修練を行えます。初級医師である研修医のために私達は、患者さんとのコミュニケーション能力を延ばし、自己研鑽が可能な現場を目指しています。『look（見る）』→『watch & research（視る&観る）』→『care & cure（看る&診る）』を習熟し、自らが納得出来る、根拠のある診療を行います。

当科が取り扱う疾患は、全身を診ることで解決する疾患がほとんどです。研修を通じ、頭の先から足の先までをくまなく観察し、診断出来る能力を伸ばすことが出来ます。

難しいと思われるかもしれません。しかし、患者さんの全体像をつかむ研修は、今後の医師生活で遭遇するあらゆる難題に必ず助けとなることでしょう。

当科の目指す真摯な診療は、患者さんと医療者のお互いが幸せになると思います。共に励んでみませんか?

内　科（血液）

血液内科では学会認定専門医2名が診療にあたっています。入院患者の多くは白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫などの造血器腫瘍ですが、最近この分野での診断法、治療法の進歩は目覚ましく、遺伝子診断や分子標的療法、自家末梢血幹細胞移植などがん診療の最先端を実践していると感じています。医療圏では唯一の血液内科であることから、症例は多く多様な血液疾患を経験することができます。

研修医の皆さんには、まず内科医としての基本的な手技や考え方を修得し、その上に血液学の知識と経験を積み上げることができるような場を提供したいと考えています。

今後どのような進路を取るにしても役立つ有意義な時間を提供できればと思います。「山紫水明」の地で、実力を鍛え上げてください。

スタッフ皆でお手伝いします。

内　科（代謝・内分泌）

常勤医4名で診療にあたり、うち2名が日本糖尿病学会専門医であり、日本糖尿病学会認定教育施設として登録されています。糖尿病を代表とする慢性疾患の管理・指導や患者啓蒙活動（糖尿病教室など）に携わるだけでなく、救命救急センターから依頼される多彩な急性代謝失調にも対応し、内分泌疾患のコンサルトも多くあります。

糖尿病はセルフケアの実行度を高めることが重要であり、自己管理能力を引き出してあげることが大切です。そのために院内の糖尿病看護認定看護師1名を含む糖尿病療養指導士21名（日本または山形県）と協力してチーム医療をおこなっています。また、糖尿病は全身疾患であるため、合併症診療や術前コントロールなどで多くの診療科と連携する機会が多いのも特徴です。

糖尿病患者は多く、将来どの分野に進んでもある程度の血糖管理は必要になります。是非、当科で研修して自信をつけましょう。

指導医からのメッセージ

小　児　科

現在、スタッフ3名、非常勤医師5名、研修医数名で診療にあたっています。科内の雰囲気はアットホームでそれぞれの意思の疎通はしっかりとれていると自負しています。

研修の目標は、初期医療における応急処置を身に着けることと、診療に対する基本的な知識、技術を身に付けることです。各種感染症、脱水症などのcommon diseaseを経験できることはもちろんのこと、救命救急センターが併設されていますので、小児救急を十分に学ぶことができます。また、正常新生児の診療はもちろんのこと、様々な新生児疾患を経験することができます。

スタッフ・非常勤医師が各自専門分野をもっていますので、循環器疾患、神経疾患、血液疾患、代謝・内分泌疾患、腎疾患などの専門的な疾患も診療することができます。また、当院は小児科専門医研修プログラム連携施設であり、基幹施設（山形大学医学部附属病院）での研修とともに当院で研修を積むことで小児科専門医の受験資格を取得することができます。

充実した研修生活をお約束いたします。

精　神　科

当院は山形県置賜地域の二次医療圏の拠点病院であり、大学病院以外では県内唯一の有床総合病院精神科です。また救命救急センターを有すること、がん診療連携拠点病院に指定されています。こうした特性を生かして精神科救急医療、精神科急性期治療、精神科リエゾン、およびがん医療における精神医学的ニーズに関する経験など、研修を通して精神科医療について幅広く経験を積むことができます。

具体的には措置病床を有しており措置入院を含めた精神科救急や、修正型電気刺激療法は年間150～200回程度施行しているので統合失調症における重度かつ難治への対応を含めた多くの疾患を経験することができます。

また身体合併症やコンサルタントリエゾン、緩和ケアチームを通した他科との連携を経験することは今後の精神科医療ではますます重要となっていきます。なお精神科専攻医研修プログラム連携施設であるので、精神保健指定医取得のための全症例を経験し、精神神経学会専門医、総合病院精神医学会専門医を目指す事ができます。

外科・消化器外科

研修目標は、外科の基本を身につけることです。研修期間中に、手術症例を1例受け持ち、術前・術中・術後の所見とその疾患の病態・治療法・考察についてレポートを書いてもらいます。朝は内科等とのカンファレンスから始まり、病棟回診、そして手術を経験します。技術的には、中心静脈カテーテルの挿入法も体得します。さらに、創の処置法、縫合法などをはじめ、外来外科手術など比較的小さい手術の経験をします。2年目の選択枠で6か月位の長期研修になると、虫垂切除術や鼠径ヘルニア手術は勿論のこと、腹腔鏡下胆のう摘出術などの手術も可能になります。

また、自分の担当患者のみでなく、ほとんどのあらゆる手術症例に助手として入ってもらい、毎日のように多くの手術を経験します。月3回位は副当直（または日直）医として外科救急医療も研修することになります。どうぞ張り切って研修してください。

呼吸器外科

呼吸器外科は年間約90例の手術を行っております。そのうち、原発性肺癌が約60例で、残りが自然気胸、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍等です。当院のHPにも上げてありますが、最近は肺癌の手術が増えてきております。

当科では、肺癌は鏡視下手術を中心に行っており、手術は呼吸器外科専門医2名の医師で行っております。

心臓血管外科とは胸部外科として一緒に働いておりますので、心臓血管外科の手術も研修出来ますし、救急救命センターもありますので胸部外傷などの臨床経験も積むことが可能です。

病棟は、呼吸器病センターとして呼吸器内科と合同になっており、内科も含めて幅広い研修が可能と思いますのでどうぞおいで下さい。

心臓血管外科

心臓血管外科医師は1名で、呼吸器外科と共に胸部外科としてチーム医療を行っています。心臓外科に関しては、狭心症に対する冠動脈バイパス術、弁膜症に対する弁形成術、弁置換を主体に行っています。血管外科に関しては真性大動脈瘤、解離性大動脈瘤などの大動脈疾患から内蔵動脈瘤、上下肢の動脈瘤、慢性・急性動脈閉塞まで多岐にわたって治療しています。また下肢静脈瘤、深部・表在静脈血栓症などの静脈疾患にも対応しています。

昨今の研修医制度の現況や心臓血管外科医を目指す若手医師の不足から、地方においては、スタッフの確保が極めて困難で、心臓大血管手術に関しては大病院への集中がさらに強く望まれてはおりますが、人口母集団としては小規模でも、極めて広域の、公共交通機関にも乏しい地域であり、当科の救急医療に対する役割は大きいと考えております。また高齢者の多い置賜地域にあっては、動脈硬化性の疾患が主体となる当科の疾患に対する地域のニーズも非常に高いものがあると考えております。

整形外科

当院は置賜地域（人口22万人余り）を診療圏としており、また救命救急センターも併設し、診療圏唯一の中核病院であることから、整形外科としても豊富な臨床経験を積むことができます。本院での研修に加え、サテライト病院での診療に携わることで、地域医療の学習・経験を深めることも可能です。

整形外科は現在スタッフ10名（専門医7名）で診療にあたっております。

脊椎外科、肩関節外科、股関節外科、膝関節外科、手の外科を専門とするスタッフがそれぞれ常勤しており、専門的な研修を積むことができます。

外傷手術も県内有数の症例数であり、整形外科手術の約半分は外傷手術が占めています。

手術はもちろん、一般的な整形外科的処置の手技や検査も、積極的に数多く学び経験していただけるように、研修プログラムを組んでおります。外来・救命救急カンファレンスや、病棟、他職種カンファレンスでの指導にも注力しており、研修進度をスタッフ全員で把握し共通理解のもとで日々の指導にあたっております。たくさんの研修医の方に来ていただき、一緒に学んでいただければ幸いです。

指導医からのメッセージ

脳神経外科

脳神経外科では主に急性期脳卒中、頭部外傷を治療しています。研修での獲得目標は、将来一人で当直し、脳卒中、頭部外傷の患者さんを診た時に、適切に診断、治療、特に外科的な緊急治療の必要性を判断できる、ということです。

当院では急性期脳卒中、頭部外傷の患者さんを神経内科、総合診療科と共同で診療しており、月に平均45名の新入院があり、ベッド数と併せると、約80名／月の患者さんを経験できます。

救急部での対応、神経学的所見の取り方、画像診断、急性期血栓溶解療法、機械的血栓回収治療、開頭手術などの適応の判断、保存的治療の方法、そして家族も含めて患者さんに対して一人の人間として敬意を持って接することを一緒に学びます。

神経内科

神経内科は救急科、脳神経外科、総合診療科と協力して神経系疾患に対応しています。

パーキンソン病(PD)、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、多系統萎縮症(MSA)などの神経変性疾患や、ギランバレー症候群(GBS)、重症筋無力症(MG)などの神経救急疾患が神経内科の中心となりますが、入院患者数で脳梗塞などの脳血管障害が多く、外来ではふるえやけいれんなどの不随意運動、頭痛など、神経症状をもつ患者さんも多く受診されます。高齢者の診療では神経学的診察はどの科に進んでも有用なものとなります。当科には神経学会専門医・指導医、脳卒中専門医、総合内科専門医、臨床神経生理学会指導医がおり、脳卒中についても脳神経外科と協力して専門医のもと研修が可能です。一緒に研修できることを期待しています。

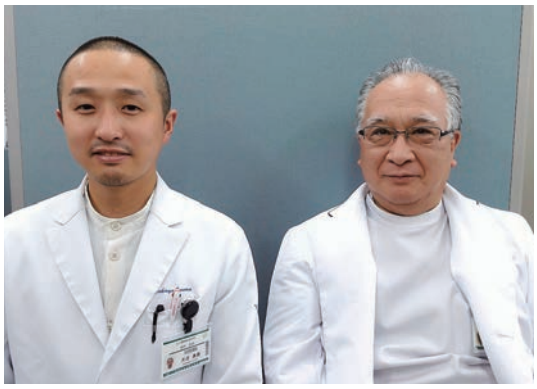
泌尿器科

当科は小児泌尿器、女性泌尿器、排尿障害、尿路結石症、尿路感染症、泌尿器悪性腫瘍、泌尿器救急疾患などに対応しています。

外来では内視鏡検査、超音波検査、尿管ステント処置、フォーレ関連処置があり、これらの処置は年間1000件を超えます。研修期間にはこれらの処置に関して自立することを目標とします。

病棟では、感染症、尿路結石症、排尿障害、女性泌尿器疾患、急性陰嚢症、悪性腫瘍などに対する保存的治療法、侵襲的治療法を経験できます。手術では自科麻酔も学ぶことができます。興味があることを躊躇なく習得できるように支援します。

眼　　科



眼科の外来では、白内障をはじめ、緑内障、糖尿病網膜症などの眼底疾患、眼瞼内反症などの眼瞼疾患などいわゆる眼科一般の症例が多数受診します。それらに加えて当院では「眼腫瘍センター」を設置しているので、他施設ではあまりみることができない眼腫瘍の症例を経験することができます。

治療面では、白内障手術を中心に、緑内障手術、眼瞼手術、腫瘍摘出術など多彩な手術を行っています。また、甲状腺眼症や視神経炎などに対するステロイド治療、眼腫瘍に対する放射線治療や抗癌剤の点眼治療などの保存的治療も行っています。

白内障や眼底疾患のみでなく様々な興味ある症例が経験できると思います。

産婦人科

当院は置賜地区産婦人科医療の最後の砦です。特に置賜地方では専門科が他にないため、精神疾患合併妊婦、内科疾患合併妊婦は当科で妊婦健診を行っています。2023年の総分娩数は231件、帝王切開は45件ありました。

産婦人科を専門にしない場合、今後分娩や妊婦健診を扱うことは殆どないでしょう。1ヶ月の研修期間では修得できることも限られています。1ヶ月だけ研修する皆さんに学んでいただきたいことは、車中や機内での分娩や有事の際に産婦人科医が直接立ち会えない状況下で、最低限の産科的処置を何とかできる知識と技能です。あとは学生時代に座学や実習で学んだ内容を「医師」として実際に関わりながら自分のイメージをつくることです。

分娩には波がありますので、「分娩があるときは呼んでください…」と極力関わろうと努力しなければ、1ヵ月の研修での経験症例が、帝王切開数件に正常分娩1件以下となることもあります。短期間ですが、集中して研修しましょう。

麻　酔　科

麻酔科は3名の医師で年間約1,400件の全身麻酔を行っていますので、自由選択で麻酔科をまわっていただいた際には、全身麻酔の経験を積むのに充分な症例があります。

2名は10年以上のキャリアを持っており研修の先生への指導経験も豊富です。全身麻酔の研修を積むには最も良い環境だと思います。また、1名は麻酔科専門医資格取得に向け山形大学医学部附属病院麻酔科麻酔科専門研修プログラム（オールマイティ山形）にて研修中です。麻酔科研修目標は「指導医とともに術前回診に参加し、患者の問題点を把握し麻酔計画を立案する。さらに麻酔管理に参加し、術後回診に加わり周術期の患者の総合的管理を研修する」です。研修の先生を歓迎します。

指導医からのメッセージ

放射線科

放射線科の常勤医師は現在5名おり、画像診断、核医学、IVR、放射線治療を担当しています。日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会、日本IVR学会の専門医が在籍する認定施設です。

当院は総合病院であり、common disease、救命救急センターの急性疾患、多彩な悪性腫瘍が数多く経験できます。治療方針決定のカンファレンスにも多数参加し、各科と問題点の共有を可能にしています。

心臓以外の血管系IVRは放射線科が担当し、ドレナージや生検も施行しています。肝癌の塞栓術、透析シャントを含めて血管形成術等血管系IVRは年間200例程度施行しています。救命センターのIVRも放射線科で施行し、外傷等に対しての止血術がメインです。血管撮影とIVRの研修としては十分な症例数です。

放射線治療は癌の標準的治療を行っており、また抗がん剤併用治療も多数施行しています。地域の癌治療拠点として、すべての患者さんに最適の治療を行うことを目標としています。

初期研修のうちの希望科として放射線科研修は、画像診断の基本を主に学んで頂き「研修終了後は画像診断力の向上が目に見えて分かる」と好評です。

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は常勤医3名で診療にあたっています。当科の特色は耳鼻咽喉科疾患を幅広く診療していることと、マンツーマンの徹底した指導で耳鼻咽喉科専門医を目指す方も短期間に耳鼻咽喉科の基本的な知識と手技を身につけたい方にも十分な研修ができます。症例、手術数については、外来は1日50名程度と多く、新生児聴力検査や平衡機能検査、頭頸部超音波検査など専門的な検査も行っており、研修医は指導医のもとで実際に診察を行います。手術は中耳炎、副鼻腔炎から頭頸部癌まで年間200件以上行っており、研修医はまず助手を務めます。そのうち内視鏡副鼻腔手術が50件以上と多くを占めており、ほかに口蓋扁桃手術や頭頸部良性腫瘍手術など基本的な手術については、耳鼻咽喉科専門医を目指す後期研修医には執刀できるよう指導します。学会発表についても地方部会や全国学会での発表を指導します。

当院耳鼻咽喉科は頭頸部の救急疾患、神経疾患、アレルギー疾患、内分泌疾患、腫瘍、リハビリテーションなどの幅広い疾患を、内科的・外科的に治療します。耳鼻咽喉科に興味がある方のみならず、すべてを勉強したい方、何に興味があるかわからない方の研修をお待ちしております。

形成外科

外科系を目指す方には、形成外科的縫合法、創傷治癒にのっとった創傷治療から機器を用いた最新治療まで学ぶことで外科治療の基本を自分のものにすることができます。

外表異常について新生児検診を行っており、小児科の先生方と連携して、生後間もなくから介入し、ご家族に安心感を与えられるようにしています。小児の口唇裂手術から高齢者の褥瘡治療まで、頭から足先まで、整容からがん治療の機能再建、緩和治療まで、多くの科と連携し幅広い診療を経験できます。

救急外来でも顔面骨骨折、顔面創傷、熱傷についての基本的診療を学べます。特に顔面骨骨折に関しては、口腔外科との連携で、3Dプリンティング技術も駆使して咀嚼・咬合の　機能の獲得と整容の回復に配慮した集約的治療を行っています。

志望科に迷っている、特に外科系を目指す方には外科系診療科の診療を見渡せるような診療環境にある当科をまわられると志望科の選択の助けになると思います。

総合診療科

総合診療科では、「患者中心の地域包括医療・ケアの達人をめざして!」をスローガンに掲げ、全人的、包括的な医療を実施できる医療人の育成を行います。優れた臨床医を養成するには、さまざまなシチュエーションが経験でき、幅広い領域をまんべんなく研修できるようにコーディネートされた施設が向いています。

当院総合診療科での外来・入院診療、サテライト施設では、日常疾患の初期診療から高度化・専門分化したそれぞれの最先端の医療を、患者に寄り添いながら地域の特性や問題点の把握等をし、また自ら考えて自ら行動する医療を多職種、他職種と連携して実践します。

高いレベルの診断・治療のみならず、患者の希望をしっかり感じ取りそれを反映させる臨床能力を備えた臨床医を本気で養成します。

教育体制

臨床研修管理委員会が中心となり、研修医の教育体制の整備を行っています。週1回のカンファレンスのほか、キャンサーボード、救急医療講習会、臨床病理検討会(CPC)、各部門による特別講演会などを開催しています。

専門研修プログラムにおける基幹施設

公立置賜総合病院　総合診療科
『総合診療専門研修プログラム』

◆連携施設

山形大学医学部附属病院
山形県立中央病院
山形県立河北病院
町立真室川病院
最上町立最上病院
西川町立病院
朝日町立病院
白鷹町立病院
小国町立病院
公立高畠病院
公立置賜南陽病院
大蔵村診療所
生協浮間診療所
多摩北部医療センター

専門研修プログラムにおける連携施設

内　　科	山形大学医学部附属病院、山形県立中央病院、東北大学病院、日本海総合病院
外　　科	山形大学医学部附属病院
産婦人科	山形大学医学部附属病院、日本海総合病院
耳鼻咽喉科	山形大学医学部附属病院
脳神経外科	山形大学医学部附属病院
麻　酔　科	山形大学医学部附属病院
小　児　科	山形大学医学部附属病院
精　神　科	山形大学医学部附属病院
整形外科	山形大学医学部附属病院
眼　　科	山形大学医学部附属病院
泌尿器科	山形大学医学部附属病院
放射線科	山形大学医学部附属病院
救　急　科	山形大学医学部附属病院、山形県立中央病院
病　理　科	山形大学医学部附属病院、山形県立中央病院
総合診療科	山形大学医学部附属病院

研修医の声

緒方　雅真　研修医

私はこの1年間で様々な経験を積むことができましたが、特に印象深いのは救急当直が充実している点と研修ローテーションの自由度が高い点です。

当院には三次救急の機能を担う救命救急センターが併設されています。そのためcommon diseaseだけでなく心筋梗塞や脳出血、高エネルギー外傷といった緊急疾患も初期研修の間に経験することが可能です。多くの症例と向き合うことができる経験は、必ず研修が終了した後にも生かされると思います。研修ローテーションの自由度が高い点も当院の魅力の一つです。私は研修を始めた時点で、まだ志望科が決まっていませんでした。しかし様々な科を回るにつれて将来の展望が徐々に定まっていき、新たに研修したい科も出てきました。そこでローテーションを変更することが可能な恵まれたシステムによって、自分の将来に向けた理想的な研修を送ることができています。

大きく2つ当院の特徴を挙げさせていただきましたが、まだまだ伝えきれない魅力がたくさんあります。ぜひ一度当院に見学にいらしてください！

中山　宗俊　研修医

私が1年当院で研修をしてきて感じたよい点を挙げたいと思います。

まず当院での研修を語る上で欠かせないのは救急研修や日当直に関してです。当院では1次救急から3次救急まで多種多様な疾患にあたることができ、その多くの初期対応は研修医が行うため、初期対応力と胆力を鍛えるには最適な環境であると思います。また、当院だけでほとんどの科が揃っている上に必修科が最小限であるためローテーションの自由度が高く、さらにそのときの志望度に応じて研修科を変更することも可能であることも特徴の一つです。その他にも、指導医への相談のしやすさやフィードバックを得られること、様々な手技を経験させていただけること、同期のほどよい人数など良い点は様々あります。

少しでも興味を持っていただいた方は是非一度見学に来ていただき、当院の雰囲気そして実際の研修の様子を味わっていただければ幸いです。

鈴木　彩花　研修医

皆さん、研修先について頭を悩ませていませんか。私も学生の頃は非常に悩みました。皆さんが自分に合った研修病院と出会えることを願いつつ、置賜総合病院の良さについて、ぜひ参考にしていただけたらと思います。

まず、各科自分の裁量に合わせて研修ができます。研修ローテーションは次月やそれ以降について相談することができ、また2年目の後半などは未定でも後から変更することができます。そして研修についての希望や相談を、上級医にしやすい環境となっています。図書室にはレジデント向けの本も豊富で、居心地のいい空間となっています。また、当院は置賜地方の三次病院であり、救急車のファーストタッチも上級医の指導の元で経験させていただけるため、様々な疾患、病態に出会うことができます。最初は不安だらけでしたが、徐々にそれぞれの症候に対する診察の仕方が身についてきました。

近くには赤湯温泉や小野川温泉もあり、疲れを癒すことができます。また米沢牛や日本酒など美味しいものもたくさんあります。百聞は一見にしかず！気になっている方はぜひ見学にいらしてください！お待ちしております！

伊藤　誠　研修医

私は消化器内科志望ですが、初期研修中は救急を学びたいと考えたため3次救急である当院を選びました。

救急科ローテーションを行って感じたことをお伝えします。私たちがファーストタッチを行い、鑑別した後検査をオーダー、結果を見て診断を決定するという、初期研修医に裁量の大きい研修となっています。疾患を自分なりに検討することで、自分で診断する能力を培うことが出来ました。もし誤った診断をした場合には、救急専門医の先生に教えていただき、軌道修正することで徐々に学んでいきます。将来的には一人で診断しなければならないので、ここでの研修は非常に身になりました。他科のローテーションも、疾患について学ぶことはもちろん、手技を習得や、希望があれば学会発表を行うことができ、3年目以降の足掛かりとして非常に大事だと感じます。

まずは見学していただけると病院の雰囲気を知ることが出来ると思うので、お会いできる時を楽しみにしています。

井本　咲和子　研修医

置腸総合病院での研修を考えている皆さん、初めまして。山形県含め東北出身の同期がほとんどの中、私は大阪生まれ、東京育ちで、研修医になって初めて山形県に住み始めた新参者です。こんな経歴になっていますが、誰一人知り合いがいなかったこの地で楽しく研修させて頂けているこの環境を、少しばかり皆さんにご紹介できればと思います。

私と置総との出会いは大学2年時の病院実習でした。右も左も分からない中で、先生方、秘書さんや看護師の方々に暖かく接していただき、とても充実した実習だったと記憶しています。マッチングを控えた6年の春に再び置総に戻ってきて教急科と産婦人科をまわり、当院での研修を決意しました。上級医の先生方の丁寧な指導が受けられる環境があり、救急科ではcommon disease から3次救急までを幅広く研修医がファーストタッチし経験できます。

まだまだ書ききれない置総の良さがたくさんありますので、ぜひ一度見学に来てみてください。お待ちしています！

安村　香波　研修医

当院で研修をしていて良かった点については他の人が書いているかと思いますので、私は普段の生活について紹介したいと思います。

研修医は敷地内のレジデントハウスに入居することができます。きれいで一人暮らしには十分な広さがあり、病院まで徒歩5分もかかりません。病院周辺には徒歩圏内にドラッグストアとスーパーも開店し、急いで車を購入しなくても余裕で買い物ができるようになりました。また地域には、米沢牛をはじめとした美味しい食事処や、地元に根付いた安く美味しい店も多くあります。当直の翌日は半日休が貰える場合が多いので、その時には昼から近くの温泉で疲れを癒すことが出来ることも気に入ってます。

置賜は、自然豊かで空気が綺麗で心が癒される土地だと思います。そんな土地にあるからか、病院全体の雰囲気も明るく多職種間でのコミュニケーションも取りやすい、とても良い職場です。ぜひ1度見学に来てみてください。

齋藤　瑞希　研修医

私は置賜地方出身であり、以前から身近であった置賜総合病院で研修をしたいと感じたのが当院を志望した理由です。きっかけはこのような理由ですが、実際に研修を開始し当院には様々な魅力があると感じました。

まず、病院全体の雰囲気が良く、気持ちよく業務に当たれる空気感があります。未だに慣れない事だらけですが、病棟の看護師さんや指導医に多くの場面で助けていただきながら勉強させてもらっています。自由な研修プログラムも魅力的です。当院では最初にローテーションを決めますが、実際にそのプログラムのまま2年間の研修を終えるほうが珍しいです。各々のニーズに合わせてローテーションをフレキシブルに調整できる点は非常に大きな魅力です。

まだまだお伝えしたい魅力は沢山あるのですが、紙面の関係上書ききれないのでぜひ一度病院見学にいらしてください。病院職員一同皆様と一緒にお仕事できることを心よりお待ちしております。

臨床研修医募集要項

令和7年度　公立置賜総合病院

1.応募資格

次のいずれかに該当する者
- ●令和7年4月30日までに医師免許を取得する見込みの者
- ●平成16年4月1日以降に医師免許を取得したもので、医師法第16条の2第1項の規定に基づく臨床研修をおこなっていない者

2.募集定員

10名(うち地域医療重点プログラム 1名)

3.研修期間

令和7年4月1日から2年間

4.勤務・処遇

(1)給与月額　1年次　基本月額375,608円（年間総支給見込額　約700万円）
2年次　基本月額393,008円（年間総支給見込額　約830万円）
手　当　通勤手当、時間外勤務手当、期末手当、
宿日直手当（指導医のもと宿日直を行う）、退職手当等

(2)その他
- ●休　暇：年20日(1年次は15日)の年次有給休暇、夏季休暇
- ●保　険：社会保険(共済組合加入)、厚生年金保険、雇用保険、労災保険を適用
- ●医師賠償責任保険：病院において包括加入(個人加入は任意とする)
- ●宿　舎：レジデントハウス
- ●健　康　管　理：年1回定期健康診断実施、各種検診、予防接種等
- ●学会等参加する場合、旅費等の支給有り

5.選考方法

面接試験及び成績証明書による書類選考　　※申込締切は8月中旬予定

6.選考日程

各自病院へお問い合わせください。

7.応募手続き

下記の書類を提出してください。郵送の場合は封筒に「臨床研修医申込書在中」と記載してください。
- ●令和7年度　臨床研修医申込書　1部
- ●履歴書(写真添付)　1部
- ●成績証明書　1部

8.応募・問い合わせ先

公立置賜総合病院　総務課職員係
〒992-0601 山形県東置賜郡川西町大字西大塚2000番地
電　話：0238－46－5000㈹　FAX：0238－46－5711
Email：soumu@okitama-hp.or.jp

9.そ　の　他
- ●マッチングシステムに則り、登録及び選考します。
- ●二次募集については、マッチング結果発表後から随時お問い合わせください。
- ●給与については正職員の給与改定に準じ改定する場合があります。

歯科臨床研修医募集要項

令和7年度　公立置賜総合病院

1.応募資格

次のいずれかに該当する者
- ●令和7年4月30日までに歯科医師免許を取得する見込みの者
- ●平成16年4月1日以降に歯科医師免許を取得したもので、歯科医師法第16の2第1項の規定に基づく臨床研修をおこなっていない者

2.募集定員

1名

3.研修期間

令和7年4月1日から1年間

4.勤務・処遇

(1)給　与　　基本月額375,608円（年間総支給見込額　約670万円）

手　当　通勤手当、時間外勤務手当、期末手当、退職金等

(2)その他
- ●休　　暇：年15日の年次有給休暇、夏季休暇
- ●保　　険：社会保険（共済組合加入）、厚生年金保険、雇用保険、労災保険を適用
- ●医師賠償責任保険：病院において包括加入（個人加入は任意とする）
- ●宿　　舎：レジデントハウス
- ●健　康　管　理：年1回定期健康診断実施、各種検診、予防接種等
- ●学会等参加する場合、旅費等の支給有り

5.選考方法

面接試験及び成績証明書による書類選考　　※必ず事前に病院見学をしてください。

6.選考日程

公立置賜総合病院にて8月下旬実施予定　　※後日ご連絡します。

7.応募手続き

下記の書類を提出してください。

郵送の場合は封筒に「臨床研修歯科医申込書在中」と記載してください。
- ●令和7年度　臨床研修歯科医申込書　　1部
- ●履歴書（写真添付）　　1部
- ●成績証明書　　1部

8.応募・問い合わせ先

P17臨床研修医募集要項に同じ。

9.そ　の　他

P17臨床研修医募集要項に同じ。

指導医からのメッセージ

歯科口腔外科は、歯科医師4名で診療を行っています。また、毎週水曜日に山形大学歯科口腔外科教授の指導をいただき様々な手術に取り組んでいます。年間の全身麻酔手術件数は約100件あり外傷、口腔がん、顎矯正、炎症、再建と多岐にわたります。また、近隣の病院に口腔外科が少ないために、外来での手術も有病者に対する歯科治療、埋伏抜歯、腫瘍、嚢胞摘出、インプラント治療など多種多様な疾患、病態を経験することができます。

当科は、日本口腔外科学会準認定施設であり山形大学歯科口腔外科と連携して日本歯科口腔外科学会認定医・専門医を取得することができます。大学や他施設での研修期間を終えて2014年以降、認定医2名、専門医3名を輩出しております。

研修の目的としては、口腔外科領域に関する外来で行える処置を自分自身で対応する「力」をつけることです。幅広い研修ができると思いますので一緒に学びましょう。

病院見学を随時受け付けています

希望する日時・診療科等お知らせください。

●詳しくはホームページをご覧ください

http://www.okitama-hp.or.jp

●総務課　職員係　**soumu@okitama-hp.or.jp**

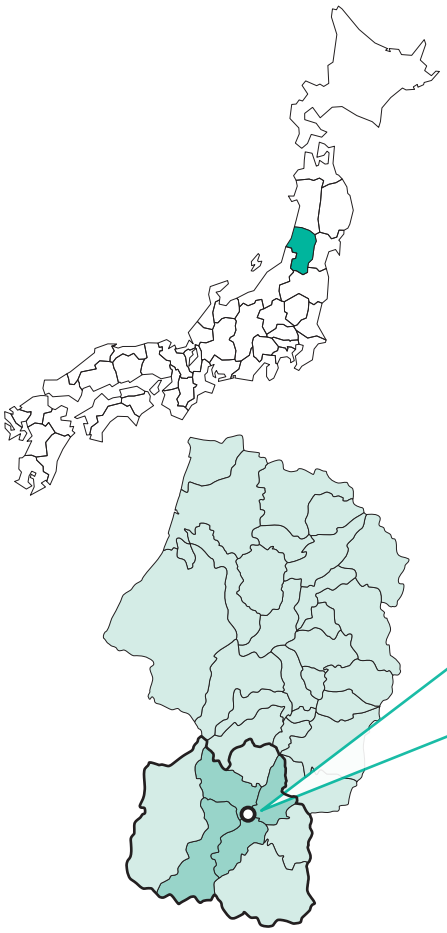
置賜広域病院企業団

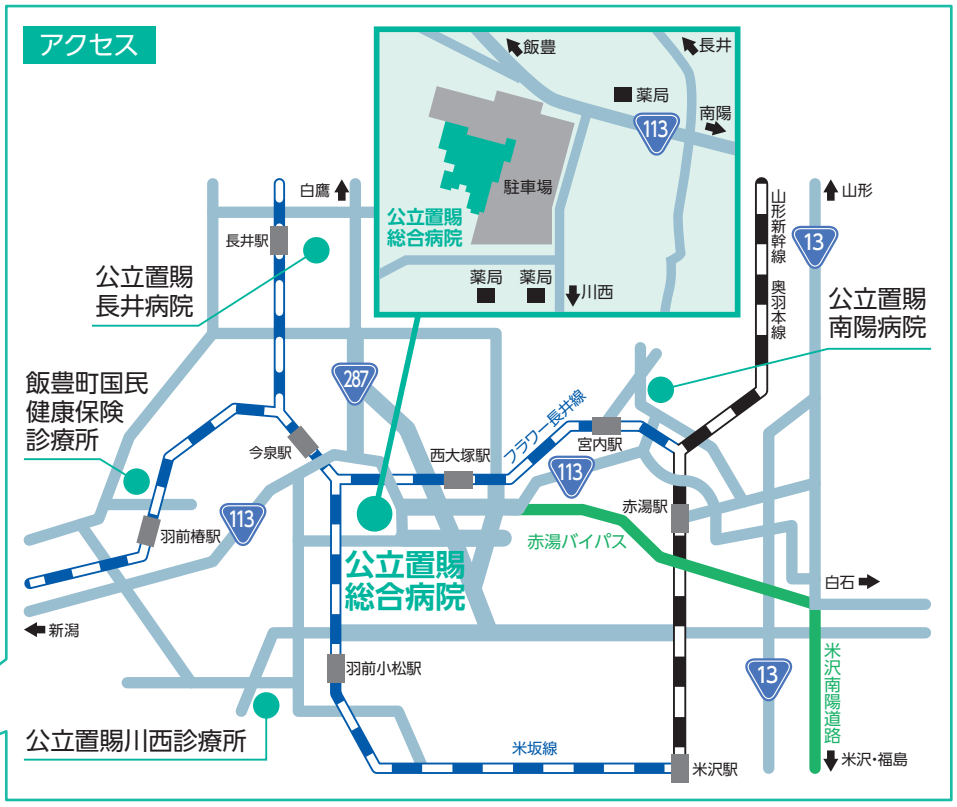
公立置賜総合病院

〒992-0601
山形県東置賜郡川西町大字西大塚2000番地
TEL:0238-46-5000　FAX:0238-46-5711
[救命救急センター]
TEL:0238-46-5800　FAX:0238-46-5801

診療科目 24科目

内科・精神科・神経内科・消化器内科・循環器内科・小児科・外科・消化器外科・呼吸器外科
整形外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科
リハビリテーション科・放射線科・歯科口腔外科・麻酔科・形成外科・救急科・乳腺外科





交通案内

□自家用車でおいでの方
[山形・米沢方面より]
米沢南陽道路終点から赤湯バイパスに入り
新潟方面へ向かって約12km

□電車とタクシーでおいでの方
赤湯駅下車 タクシーにて約15分
今泉駅下車 タクシーにて約5分、徒歩15分